ISSN 0386-8931

史窓

二〇一七年二月六日 印刷
二〇一七年二月十日 発行

史窓 第七四号

第 74 号

目 次

論 文

「戒和上昔今禄」と織田政権の寺社訴訟制度……早島 大祐（1）

隋の東部ユーラシア規模での世界戦略
—北方と西方への遠交近攻、以夷制夷の対外政策—……菅沼 愛語（43）

史料紹介

慈覚大師円仁『入唐新求聖教目録』……小南 沙月（67）

アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著
『高貴なる用語の解説』訳注（7）……谷口淳一 編（*1*）

彙 報……（115）

2017・2

京都女子大学史学会

京都女子大学史学会

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

Journal of Historical Studies

SHISŌ

Vol. 74 February 2017

Contents

Articles

HAYASHIMA Daisuke, The Study on Oda administration's litigation system, based on "Kaiwajo sekikonroku" ……(1)

SUGANUMA Aigo, Diplomatic Strategy of Sui (隋) at Eastern Eurasian scale: Successful Policies to Northern and Western countries……(43)

Historical Documents

KOMINAMI Satsuki, An Edition of Jikakudaishi Ennin's "Nitto Shingu Syogyo Mokuroku": Ennin's Third Inventory concerning the Buddihist Scriptures brought back from Tang China.……(67)

TANIGUCHI Junichi(ed.), A Japanese Translation of Aḥmad Ibn Faḍl Allāh al-'Umarī's *al-Ta'rīf bi-al-muṣṭalaḥ al-šarīf* (7) ……(*1*)

Miscellaneous……(115)

THE ASSOCIATION OF HISTORICAL STUDIES
Kyoto Women's University, Kyoto, Japan

ISSN 0386·8931

表紙の題字は故那波利貞先生の筆。『史窓』
が活版印刷になり第5・6合併号を発行した
とき（昭和29年）御書きいただいたものです。

彙　報

二〇一六年度　学会行事

春季学会旅行　三月二七日(日)～二八日(月)

伊勢・熊野

春季史学会旅行では、伊勢、熊野方面へと向かいました。伊勢神宮の内宮への参拝、おかげ横丁の散策、また熊野速玉大社や那智大社、熊野本宮大社など多くの神社を訪れたり熊野古道を歩いたりと、盛りだくさんな旅行となりました。

一日目は多くの木々に囲まれ、どこかスピリチュアルな世界を感じつつ、伊勢神宮の内宮へ参拝しました。おかげ横丁では、名物の伊勢うどんを食べたり、多く立ち並ぶお土産物店で食べ歩きをしたりしました。また、日本書紀にも記されている日本最古の神社といわれている花の窟神社を訪れました。ご神体は高さ七〇メートルもの巨岩で、目の前にそびえる大岩に圧倒されました。勝浦温泉では、身も心もすっかりリフレッシュできました。

二日目は、那智大社、青岸渡寺へと向かいました。朱色の大きなご本殿や拝殿を前に、みんな真剣にお祈りしていました。飛瀧神社の御神体として古くから人々の畏敬を集める那智の滝は荘厳で、古から伝わる力強いパワーを感じるようでした。熊野古道ウォークでは、慣れない山道に苦労しつつも、語り部さんのわかりやすいご説明や、明るい励ましに力をもらい、歩き切ることができました。

また、宿泊したホテルでのおいしい食事、二次会での先輩・後輩・先生との交流、バス移動中のビンゴ大会など観光以外の部分も盛りだくさんでした。二日間でこれだけ多くの体験をすることができ、全体を通してたいへん有意義な旅行となりました。

新入生歓迎会　四月一日(金)

古都京都の桜が美しく咲き誇るころ、今年も無事に新入生を迎え、入学式後の新入生歓迎会も成功裏に終えることが出来ました。京都女子大学文学部史学科に新しい仲間が増えたことをうれしく思いました。

それぞれの高校の制服と校舎、そして友人たちと別れを告げ、真新しいスーツに身を包み、広々とした大学の講義室での新しい友人との出会いに気持ちを高ぶらせている新入生を見ていると、史学会委員一同それぞれの新入生だった頃が懐かしく思い出されました。あの頃の自分が不安だったことを思い出し、新入生に丁寧な説明を行うことができました。史学会の紹介と委員の自己紹介では、史学科の魅力や史学会の委員になったことによる楽しさなどを新入生に伝えました。新入生の不安を少しでも減らしてあげられていたら幸いです。私たちが新入生だった頃もとても不安でしたが、史学会委員の先輩方の楽しそうな大学生活の話を聞いて、これからの生活に期待を持ったものです。

史学会委員の活動が学生の生活の不安を少しでも和らげることができると実感した一日を送ることが出来ました。史学科の学生が不安に思ったことがあれば気軽に相談できる史学会委員であるように心掛け、新入生が不安に思うことがあれば、いつでもサポートできるよう準備しております。

新入生歓迎バスツアー　四月五日(火)

宇治・平等院

史学科の新入生は本願寺参拝を終えた後、毎年行っている新歓バスツアーに参加します。本年度は、史学科の先生方と新入生のみなさんで平等院へ行きました。新歓バスツアーは新入生どうしの交流を目的としており、平等院へ向かうバスの中では個性溢れる自己紹介が行われました。新入生は、初対面の人に向かってマイクで話すこともあり、はじめは緊張している様子を見せていました。しかし、各々の出身地や、趣味、史学科らしい歴史の話を語る中で、新入生どうし共通点を見つけて共感の声が上がるようになり、一気に車内は和やかな雰囲気になりました。

平等院に到着し、新入生が集って写真撮影をしたり参拝する姿からは、当初の緊張は感じられず、少しずつ打ち解けている様子が窺えました。平等院では、鳳凰堂内部、ミュージアムを見学しました。ミュージアムには国宝の菩薩像など貴重なものが多く展示されており、新入生は興味深く見学していました。

楽しそうな新入生の姿を見ていると、これから史学科で学んでいく学生として、このバスツアーは良い経験になったと思われました。

春季公開講座　五月一四日(土)

J三二〇教室

清朝在外公使の国際認識と外交構想

―駐英公使・薛福成の出使日記の分析を中心に―

本学准教授　箱田　恵子

成立期の江戸城大奥　九州大学教授　福田　千鶴

夏季学会旅行　八月四日(木)～八月五日(金)

松江・出雲

夏季史学会旅行では島根県の出雲方面へと向かいました。今回は小泉八雲記念館や武家屋敷、古代出雲歴史博物館、島根ワイナリーを見学したり、八重垣神社や出雲大社を訪れたりしました。

一日目は、まずは小泉八雲記念館を見学させてもらいました。小泉八雲の一生がパネルになっており、写真や説明書で簡潔にわかるようになっていました。その後は向かいの武家屋敷に適宜移動しました。一昔前に使われていたであろう手鏡やタンスが並べられており、その当時にいるような気持になりました。八重垣神社では神社内にある池に、特別な和紙の上に一〇円玉を置いて沈める占いがありました。早く沈めば良縁が早く、遅く沈むと縁が遅いことをあらわす占いでした。色々な結果の人がいたと思いますが、占い結果の遅速を楽しみました。

二日目は、はじめに古代出雲歴史博物館に行きました。中央ロビーに展示されていた宇豆柱は生命力

溢れる大木でした。出雲大社には「因幡の白兎」の話があるので兎の石像がありました。ここでは自由時間が設けられ、参拝以外にも、お昼ご飯を食べたりお土産を買ったりしました。最後に訪れた島根ワイナリーでは、ワインを作っている現場をガラス越しに見学させてもらいました。また多くの種類のワインを試飲することができました。

普段あまり関わらない他学年の人たちとも楽しく話をすることができて、夏の思い出の一つになりました。

卒業論文中間発表

日本史　一〇月三日(月)～五日(水)
東洋史　一〇月一〇日(月)～一一日(火)
西洋史　一〇月一二日(水)～一四日(金)

コース分け説明会　一二月二日(金)

J三二〇教室

本年度も一回生対象のコース分け説明会が行われました。

説明会はお弁当を食べながら日本史・東洋史・西洋史の先生方のお話を聞く形となりました。先生方がご自身の専門や、そのコースで学べることについてユーモアを交えながら魅力的に話して下さり、時折笑い声があがる和やかなものとなりました。二回生から更に専門的に学んでいく中で、楽しいこと、大変なことが各コースごとに説明され、一回生は真剣に耳を傾けていました。

説明会終了後、どのコースを選ぶか悩む一回生の姿が見受けられました。一回生には、自分が大学で学びたいことについて考える良い機会になったと思います。この機会を大切に、納得のいく選択をしてほしいと思います。

卒業生予餞会　一二月二〇日(火)

平新

卒業論文の提出締切日、恒例の予餞会が行われました。本年度も昨年に引き続き、旅館平新にお世話になり、先生方や多くの四回生が参加して、これまでの努力の日々を称えあい、とても賑やかなひと時となりました。

卒業論文は、京都女子大学で過ごした四年間の総決算です。先生と相談を重ね、図書館へ向かって史料や論文と向き合い、時間を問わず学生研究室で作業をする等、卒業論文の執筆に真剣に取り組みました。締切の直前まで努力を惜しまずに粘る姿もありました。予餞会での達成感に満ちた笑顔は、充実した学生生活を表すとともに、卒業論文完成の実感を湧かせるものでもありました。

後輩たちも、学生生活が実りあるものとなるように努力を重ね、皆がこの日を晴々とした笑顔で迎えられることを祈ります。

二〇一六年度　史学科講義題目

史学科共通

講義

日本史概論A　告井准教授
日本史概論B　坂口教授
東洋史概論A　松井教授
東洋史概論B　箱田准教授
西洋史概論A　桑山教授
西洋史概論B　本田教授
考古学　梶川講師
民俗学　徳永講師
日本美術史　山本講師
東洋美術史　竹浪講師
西洋美術史　吉田講師
歴史地理学　中村講師
人文地理学　上杉講師
自然地理学　谷畑講師
地誌学　古閑講師

講読

史学外書講読Ⅰ　坂口・谷口教授、木下講師
史学外書講読Ⅱ　谷口教授
漢文　菅沼・馬場・前田・森永講師
ラテン語　桑山教授、岸本・佐野・疋田講師

演習

史学基礎演習A　坂口・松井・母利・山田教授
史学基礎演習B　桑山・谷口・本田教授、梅田・告井・箱田・早島准教授

日本史コース

特殊講義

基礎から学び直す東アジアの近現代史
―日本の植民地問題を軸にして―　坂口教授
京都の近代
―その産業化と都市化をめぐる諸問題―　坂口教授
日本近世の身分と社会　母利教授
〝書跡資料〟概論　綾村教授
室町幕府とその時代　早島准教授
古代の成立―その展開過程の理解―　告井准教授
古代京都の諸様相　告井准教授
近世京都の朝廷と寺社　梅田准教授
陰陽道から見る日本宗教史　梅田准教授
中世前期の社会史　野口講師
「河内源氏」にみる武士勢力の成長　野口講師

講読

日本史講読Ⅰ　母利教授、梅田准教授、佐竹・高井・田中講師
日本史講読Ⅱ　告井・早島准教授、木本・吉住講師
日本古文書Ⅰ　綾村・母利教授
日本古文書Ⅱ　母利教授、早島准教授

演習

日本史入門演習　綾村・坂口・母利教授、梅田・告井・早島准教授
日本史演習Ⅰ　綾村・坂口・母利教授、梅田・告井・早島准教授
日本史演習Ⅱ　綾村・坂口・母利教授、梅田・告井・早島准教授

東洋史コース

特殊講義

中国中世仏教史の諸相　松浦講師
中国中世仏教史料の研究　松浦講師
朝鮮古代史を考える（加耶史）　田中講師
古代東北アジア史を考える（渤海史）　田中講師
イスラーム時代西アジア史　谷口教授
イスラーム時代イラン史　杉山講師
近代中国外交史　箱田准教授
現代中国外交史　箱田准教授
中国出土文字史料の検討　松井教授
周代史の研究
—文献史料と金文史料—　松井教授
東方事物起源　冨谷講師
続 東方事物起源　冨谷講師

講読

東洋史講読Ⅰ　箱田准教授、角谷講師
東洋史講読Ⅱ　松井教授
東洋史講読Ⅲ　村井講師
東洋史講読Ⅳ　岡本講師

演習

東洋史入門演習　谷口・松井教授、箱田准教授
東洋史演習Ⅰ　谷口・松井教授、箱田准教授
東洋史演習Ⅱ　谷口・松井教授、箱田准教授

西洋史コース

特殊講義

近代の帝国主義時代における文化間の相互作用
—英領インド史を素材にして—　本田教授
近代イギリス社会における事典・辞書作り　本田教授
ローマ帝国とアテネ　桑山教授
古代ローマ世界の神々　桑山教授
ヨーロッパ中世社会史の新たな地平　山田教授
中世後期フランスにおける王権と諸侯　頼講師
アメリカの独立革命（対英独立戦争）とアメリカ合衆国の誕生　常松講師
一八〇〇年の「革命」とアメリカ共和主義の発展
ポローニアと白鷲
—ポーランド国家と民族の表象の歴史から—　常松講師
ポーランド・ルネサンス—思想と行動—　小山講師
アルメニア人と近代世界
—ロシアとオスマン帝国の狭間で—　小山講師
一八世紀フランスの哲学者が見たロシアの「啓蒙専制君主」たち　伊藤講師
王寺講師

講読

西洋史講読Ⅰ　山田教授、青木講師
西洋史講読Ⅱ　本田教授
西洋史講読Ⅲ　山田教授、園屋講師
西洋史講読Ⅳ　桑山教授

演習

西洋史入門演習　桑山・本田・山田教授
西洋史演習Ⅰ　桑山・本田・山田教授
西洋史演習Ⅱ　桑山・本田・山田教授

［注］Aは前期、Bは後期、特記していないものは前後期共通。ただし特殊講義については、同一担当者が前後期それぞれ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲載し、科目名とA・Bの記号は省略した。

二〇一六年度　卒業論文題目

日本史コース

秋山　栞穂　室町幕府と鎌倉府—十五世紀前半を中心に—
安藤　祐果　本を読むということ—近世女性、上田美寿の日記を通して—
石神明日香　ミッドウエー海戦敗北以降の日本海軍航空戦力の変遷
伊勢村夏子　戦前日本における検閲機構の実態—単行本の処分要因をもとに—
伊藤　萌佳　古代都城とトイレ
井上　愛美　京都市空襲の実態—戦時統制はどう行われたか—
上柏　真帆　除痘館の種痘地方普及事業—神戸深江の深山家を中心に—
大田友里子　林羅山の神道思想—『神道伝授』『神道秘伝折中俗解』を中心に—
近江真貴子　平安時代の陰陽道—陰陽師の実態—
岡田　未帆　教育比較から見る「親日」パラオ
岡本　智美　幕末期における姫路藩の動向—姫路城開城を中心に—
岡本　真奈　近世田辺領における追放御免
小田　真央　松山藩預り地の大庄屋の職制—宇摩郡川之江村『大庄屋役用記』から見る—
尾宮　祐美　井上源三郎について
賀子　夏帆　山本五十六の再評価—人物像の再考察と航空への尽力からみる—
數井真由子　「腰越状」から見る源頼朝義経兄弟の関係
倉富　彩依　大塩平八郎の思想と救民
小池　晴佳　院政期の摂関家について
小平　真綸　近世における日光街道と宇都宮のまちについて
後藤　真実　初期豊臣政権の検地
坂根　早織　光明皇后の政治的意図—施薬院・悲田院の設置にみる—
佐々木彰子　『紫式部日記』における敦成親王の産養・五十日の祝
佐藤裕美子　改元理由からみる年号の受容と定着
澤島　里実　近世越中における寺子屋教育—氷見・広沢塾を中心に—
島西　春香　和歌山藩の職制における変化
菅　慶子　下鴨神社における延宝年間の式年遷宮について
鈴木　千遥　臨時祭・神社行幸の展開と意義—平野社を中心に—
髙島　美都　三囲稲荷の信仰の変化について—商業神になるまでの経緯とその影響—
竹内　良美　元禄期における伏見御香宮神社と門前

田中　清華　室町幕府の滅亡と二重政権について
田村　眞結　新民謡運動の再考証
常世田杏奈　大化改新考
利安　茜　南王子村における死牛馬処理の争論
戸塚　祥江　戦国大名と町人百姓―「自治都市」と呼ばれた遠江国見付―
中井　咲声　山国隊―農民たちの戊辰戦争―
仲野　七未　明治維新における薩長同盟の意義
仲森菜津美　院政期の熊野詣―後鳥羽院と藤原宗忠の参詣を中心に―
長島　茜　売茶翁の考察―思想と茶席、京との関連―
西川　晴菜　奈良県における時局匡救事業の成果
橋本　梨世　八・九世紀における国忌―遣唐使とその変遷―
長谷　恵　高杉晋作と奇兵隊―彼が目指した軍隊とは―
服部　実浪　仙翁花の誕生
原　まどか　足利尊氏と直義による二頭政治の考察
東川　文子　越前商人橘屋について
日野智亜希　大坂上荷船・茶船の荷積み争論
日野　葉月　近世後期における下官人の実態―掃部寮史生中大路家を中心に―
樋上　瑞希　古代日本の女性観―土偶の形態を通して―
藤田　麻実　写経所写経生の実態―請暇不参解からみる勤務環境―
藤本　亜未　『古事記』における天孫降臨神話の虚構性
堀田　眞衣　大坂町奉行所の与力について
堀　七海　近世文芸から見る母と子
堀内　汐里　江戸時代の仏教統制と神仏の講活動
眞壁以つ子　大覚寺の政治的役割―後宇多法皇を中心に―
牧野　千里　随身員数の変遷からみる摂関政治の様相
溝岡　愛子　練習艦隊参加艦の新聞に見る「艦内新聞」発刊起源とその定義―浅間・八雲・出雲を中心に―
簑木利加子　『百人秀歌』と四首の歌について
宮澤　綾　田山花袋の自然主義はいつうまれたか―日露戦争従軍から考える―
武藤　真由　越後長岡藩の足軽組織と職務
村瀬友希恵　明庵栄西の禅と密―鎌倉仏教におけるその役割―
森島　安美　近世大和川付け替え過程と付け替え後の実態
森　千夏　天草からみる天草・島原の乱
山口　織絵　摂関期貴族の夢分析―『権記』、『御堂関白記』、『小右記』を中心に―
山口　奈穂　弥生時代の倭国の変動―邪馬台国を中心として―
山本奈那美　『平家物語』の女性と仏教
吉岡　華純　戦国期伊達氏権力の形成過程
吉田　莉子　江戸の民衆と鯰絵―「祀り捨て」の思想に着目して―
米本　早織　桓武朝における殺牛祭祀の禁止理由について
若菜　麻未　古代の女性官僚―内侍所を中心に―
渡邉　綾音　七三一部隊が生み出した本当の「兵器」
和田　紗瑛　近世の京都における捨子
吉田　吏花　フランス留学体験と美を求めた近代日本人画家―藤田嗣治の事例を通して―
伊吹　夏美　大久保利通の実像
石原　幸季　落語に見る近世庶民文化
三谷理沙子　幕末の国学者

東洋史コース

安喰　光季　乞巧奠―織女と人々との関わりを見つめて―
泉　奏子　宋代思想と文人文化―隠逸・朝隠を中心に―
今村　早織　始皇帝陵と秦公・秦王墓―秦国の墳丘墓の考察―
河合　春佳　前漢時代の対匈奴政策―賈誼の政策を中心に―
岸本　友絵　中国における茶のはじまりと喫茶文化
北村　亜衣　朝清商民水陸貿易章程における朝鮮の戦略的外交
久世　早紀　則天武后―その権威確立過程―
黒岩　縁　清末思想家・林則徐のアヘン問題への認識
坂本　千幸　新文化運動期の陳独秀の思想
澤田真佑香　武帝の政治における黄老思想との対立
塩見理沙子　清初における西洋文化受容の衰退について
隅田　紀香　古代中国における髪の意味
高橋　沙織　『孫子』と孫子
田々美綾夏　漢代和蕃公主―政策的意味の変質―
田中　佐知　近代中国における愛国と自殺
谷口かれん　二十一ケ条要求に対する中国の反応―新聞報道を中心に―
辻　夏望　唐代士女図―新城長公主墓壁画―
友部　智予　宋朝政府と私貿易
橋本　薫　『漢書』における漢王朝神話再考
原田　梨沙　ホンタイジの権力確立過程
疋田　沙織　ユーラシア東方世界における澶淵の盟
藤本　碧　カイロ・イスタンブルのコーヒーハウス―前近代都市における役割―
松田ひかる　海西の菩薩天子について
村林　舞奈　オスマン帝国の女権政治―一六・一七世紀のスルタンとハレムの女たち―
元井亜友実　秦漢時代の宮刑制度
森内　夏美　アラビアン・ナイトの中の女性たち―描写からみる理想の女性像―
山下　史奈　上帝と天についての研究
山本　奈緒　中国古代の龍―その原型をたどる―
芳田　葵　李鴻章の台頭
若林　夏美　前漢長安城―未央宮について―
脇本真梨子　土木の変後の政局―郕王擁立を中心に―

西洋史コース

阿部　文香　ローマ帝政期における「キリスト教徒」という認識―ユダヤ教徒との比較を通じて―
石動　堯子　ジャンヌ・ダルクの二つの裁判
今西ひかる　ティベリウス・グラックスの改革とその背景
尾家　典子　イングランド宗教改革―エリザベス一世を中心に―
大槻　千尋　ヴィクトリア女王期イギリス王室の婚姻戦略
鹿庭　遥　中世カスティーリャの牧羊業とメスタ
喜馬恵理子　帝政ロシアとバルカン諸民族―一九世紀末から二〇世紀初頭にかけての関係の推移―
國友奈保美　ヘラクレス信仰の成立と伝播
小林　可歩　ローマ帝政期における医師とその社会的上昇
酒谷　葵　神聖ローマ皇帝マクシミリアンの政治的達成―ネーデルラント統治からヴォルムス帝国議会まで―
澤田　奈摘　ウル第三王朝における王の神格化
渋谷　香南　アルメニア戦争からみるネロ帝の東方政策―帝国の「脅威」に対する防衛意識―
鈴木伽奈巳　ローマ帝政期のカンパニア地方における災害とその影響
竹内　佑希　見世物とアウグストゥス―元首政の確立―
谷口　綺音　『皇帝の閑暇』から見る中世ヨーロッパの驚異譚
丁　悠優　世界恐慌と一九三三年銀行法（グラス＝スティーガル法）
中村　玲実　ヘンリー七世の王権強化
深田　千夏　ドイツ騎士修道会国家の衰退
福井　綾　島々を渡った聖ヨハネ騎士団
伏見　友里　ローマ教皇権の絶頂と霊的権威の揺らぎ
堀　友理香　オランダ東インド会社が衰退した外的要因―イギリスからの影響―
本江　美里　中世ノルウェーの集会制度と王権確立
松田　香怜　冷戦期アメリカ大統領の個性と安全保障政策―アイゼンハワーとケネディの比較―
若林　紅葉　新王国時代におけるセト神信仰の実像
渡邉むつみ　一六～一七世紀のブリテン諸島における魔女狩り

二〇一六年度　大学院文学研究科

史学専攻博士前期（修士）課程講義題目

特論

日本古代史料読解　告井准教授
歴史資料関係論文の分析　綾村教授
歴史資料関係史料の分析　綾村教授
中世～織豊期の基本的文献研究　早島准教授
中世～織豊期研究の基本的文献を読む　早島准教授
近世京都の朝廷と寺社　梅田准教授
陰陽道から見る日本宗教史　梅田准教授
高橋秀直『幕末維新の政治と社会』を読む　母利教授
笠谷和比古『近世武家社会の政治構造』を読む　母利教授
鶴見良行著『ナマコの眼』を読む　坂口教授
地域の記録を読む　小林講師
古文書の理解と読解　河内講師
古記録の理解と読解　河内講師
周王朝の国制研究　松井教授
近代中国における国際法受容　箱田准教授
近代中国外交史　箱田准教授
元代沿海地域社会の諸問題　檀上講師
明代沿海地域社会の諸問題　檀上講師
※東方事物起源　冨谷講師
中国語文献講読―中国前近代史―　村井講師
前近代アラブ地域のウラマー　谷口教授
イスラーム文化における口承の尊重　谷口教授
※アルメニア人と近代世界―ロシアとオスマン帝国の狭間で―　伊藤講師
※一八世紀フランスの哲学者が見たロシアの「啓蒙専制君主」たち　王子講師
元首政期ローマ帝国とその文化　桑山教授
カロリング時代の流通地理を描く　山田教授
中世北フランス都市の公証業務―アミアンを中心に―　山田教授
一九世紀後半～二〇世紀初頭の英米関係の社会史的側面　本田教授
※ポローニアと白鷲―ポーランド国家と民族の表象から―　小山講師
※ポーランド・ルネサンス―思想と行動―　小山講師
第一次世界大戦前のヨーロッパの内政と外交　常松講師

（※は学部共通）

演習

日本史演習Ⅰ・Ⅱ　告井准教授
日本史演習Ⅲ・Ⅳ　綾村教授
日本史演習Ⅴ・Ⅵ　母利教授
日本史演習Ⅶ・Ⅷ　梅田准教授
日本史演習Ⅸ・Ⅹ　坂口教授
日本史演習Ⅺ・Ⅻ　早島准教授
東洋史演習Ⅰ・Ⅱ　松井教授
東洋史演習Ⅴ・Ⅵ　箱田准教授
東洋史演習Ⅶ・Ⅷ　谷口教授
西洋史演習Ⅰ・Ⅱ　桑山教授
西洋史演習Ⅲ・Ⅳ　山田教授
西洋史演習Ⅴ・Ⅵ　本田教授

［注］特論については、題目が示されている科目は題目を掲げ、示されていない場合は科目名を記した。同一担当者が前後期それぞれ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲載した。その他は前後期共通。

史学専攻博士後期課程講義題目

特殊研究

日本史特殊研究Ⅱ　綾村教授
日本史特殊研究Ⅲ　母利教授
日本史特殊研究Ⅳ　坂口教授
日本史特殊研究Ⅵ　早島准教授
東洋史特殊研究Ⅰ　松井教授
東洋史特殊研究Ⅳ　谷口教授
西洋史特殊研究Ⅰ　本田教授
西洋史特殊研究Ⅱ　山田教授
西洋史特殊研究Ⅲ　桑山教授
研究指導　綾村・坂口・桑山教授

二〇一六年度　修士論文題目

木村眞由美　岡山藩周旋方の国事周旋活動―慶応元年～二年を中心に―
國武　萌　中国古代の復讐―儀礼から過礼へ―
佐々木　澪　「王家」の創出―一七世紀末プロイセン宮廷の文化政策―
高原　雅美　文久期下鴨神社の式年造替
武藤　花　日本統治下における朝鮮の公娼制度―一九三〇～一九四〇年代の平壌を中心に―

二〇一六年度　大学院行事

卒業論文発表会　四月一九～二一日

中世後期スイス盟約者団の対立と連帯
M1　井上こころ
ウィリアム二世期ノルマン貴族の動向―ベレーム領主ロベールを中心に―
M1　小森麻祐子
禹の諸相―信仰の広がりとその要因―
M1　飯村　円
明の海禁政策と朝貢貿易体制―一朝貢国の対応をめぐって―
M1　蘭　雪梅
雅楽器の名器と人々
M1　小島　彩世
第一次ポエニ戦争後のカルタゴ―バルカ家の上昇―
M1　岡村　美幸

大学院歓送迎会　四月二七日

竹取の音色にて

春期例会　六月二九日

プトレマイオス朝エジプトにおける王権概念
D1　星野　宏実

秋期例会　一〇月一三日

安孫子家文書から見る―初期桑港日本人基督教女子青年会―
D3　鈴木麻倫子

修士論文中間発表会　一一月九～一一日

慶応期岡山藩周旋方の国事周旋活動
M2　木村眞由美
近世下鴨社における社司・神人と祭祀―文久期式年造替を中心として―
M2　高原　雅美
日本統治下における朝鮮の公娼制度
M2　武藤　花
中国古代の復讐観
M2　國武　萌
「王家」の創出―一七世紀末プロイセン宮廷の文化政策―
M2　佐々木　澪

研究室だより

今年度の史学科は、一三四名の新入学部生を迎えました。二〇一七年一月現在で、二回生以上の在籍学生数は、二回生一三三名、三回生一二二名、四回生以上一四八名で、総数は五三七名です。大学院は、博士前期課程に日本史一名、東洋史二名（うち一名は留学生）、西洋史三名の計六名、後期課程に西洋史一名の新入生を迎えるという、例年通りの充実ぶりです。前期課程二回生以上の八名、後期課程二回生一名、三回生三名、特別研修者四名、研修者二名を合わせると二五名が在籍し、日々、自身の研究の深化に努めています。

教員については、昨年度御退職の檀上寛先生が名誉教授になられました。先生には、今年度も大学院非常勤講師として引き続き、史学科の教学活動に御助力いただいています。檀上先生の後任には、近代中国史が御専門の箱田恵子先生が宮城教育大から着任されました。大のネコ好きとのことで、J校舎三階のネコ化がさらに進みました。箱田先生と双璧をなすネコ派、西洋史の山田雅彦先生は、今年度も文学部長として東奔西走しておられます。

一二月には、現一回生の来年度コース分属がほぼ決まり、日本史：東洋史：西洋史の比率が概算で六：三：四となりました。久しぶりに三コースのバランスが良くなると同時に、東洋史と西洋史を合わせた世界史の新二回生数が、日本史のそれを若干上回るという、珍しい分布にもなりました。シリアの内戦とそれに伴う難民問題、イギリスのEU離脱、大方の予想を裏切ったアメリカ大統領選の結果など、混迷を深める世界情勢の下、今後の学生たちの興味関心にはどのような変化が生じていくのでしょうか。

（史学科主任　桑山由文）

学会委員

二〇一六年度の学会運営に協力して下さった学会委員は次の方々でした。例年通り史学会諸行事の企画から運営まで、全般に渡って支えていただきました。篤くお礼申し上げます。

委員長　日本史三回生　野田　真由
副委員長　日本史三回生　橋野いおり
会計　東洋史三回生　草川　夏穂

書記

日本史三回生　高原　真由
西洋史三回生　玉川　千尋
西洋史三回生　清水　彩恵
東洋史二回生　池田　凛
日本史二回生　小田今日子
東洋史二回生　近藤　まゆ
東洋史二回生　高橋　美帆
日本史二回生　豊田　結花
日本史二回生　藤井菜々子
一回生　伊藤緋那子
一回生　添島　鈴佳
一回生　高柳　結
一回生　春口　果穂
一回生　藤岡　美波
一回生　松岡　久美

広報

京都女子大学史学会会則

京都女子大学史学会会則

（名称）
第一条　本会は、京都女子大学史学会と称する。
（事務局）
第二条　本会の事務局は、京都女子大学文学部史学研究室に置く。
（目的）
第三条　本会は、史学に関する諸問題を研究し、もって学界に寄与することを目的とする。
（会員）
第四条　本会は、京都女子大学文学部史学科の専任教員および本会が特に認めた者をもって組織する。
（事業）
第五条　本会は、第三条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
1　機関誌『史窓』の発行。
2　講演会、研究発表会。
3　その他必要な事業。
（代表）
第六条　本会に代表を一名置く。代表は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、再任を妨げない。
（委員会）
第七条　『史窓』の発行のために、『史窓』編集委員会を置く。委員は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、再任を妨げない。その構成員は以下のとおりとする。
1　編集委員長　一名
2　編集委員　若干名
（総会）
第八条　本会の総会は、一年に一回以上開催し、本会の重要事項を議決する。
（事業費）
第九条　本会の事業費は、京都女子大学学会・機関誌刊行経費、その他をもってこれに当てる。
（会則の改廃）
第十条　この会則の改廃は、総会の議決を経て実施する。
附　則　この会則は、二〇〇三年四月一日より施行する。

『史窓』に関する規約

（二〇〇三年三月二〇日制定）

第一条　京都女子大学史学会（以下「本会」という）は、機関誌として『史窓』（以下「本誌」という）を刊行する。
第二条　本誌への投稿資格者は、本会会員および『史窓』編集委員会が特に認めた者とする。
第三条　原稿は、未発表のものに限る。
第四条　執筆要項などの細則は、別に定める。
第五条　この規約の改廃は、編集委員会の議決を経て、総会の承認を得て実施する。
附　則　この規約は、二〇〇三年四月一日より施行する。
（最近改正　二〇一七年一月二五日）

編集後記

『史窓』第七四号をお届けします。本号では、早島先生に本学赴任以来、初めて論文を寄稿していただきました。本学卒業後、京都大学大学院へ進学した大形氏の論文、博士後期課程の小南氏による円仁の入唐聖教目録の史料紹介も初掲載です。また前号の唐代から隋代に遡った菅沼氏の論考、長らく継続されている谷口先生の訳注を掲載しています。なお次号より本誌の論文掲載に際しては、編集委員と関係専門分野教員による査読制を導入することになりました。今後とも積極的なご寄稿をお願いいたします。

（母利美和）

『史窓』掲載論文・資料等の京都女子大学学術情報リポジトリへの登録と公開申請について

京都女子大学では、二〇一三年度より、学内の学術研究成果物を電子的に収集・保存して学内外に無償で公開し、広く社会に提供することを目的とした「京都女子大学学術情報リポジトリ（京女ＡＩＲ）」の運用を開始しました。それにともない、『史窓』におきましても、執筆者全員に対し、あらかじめ同紀要掲載論文・資料等のリポジトリへの登録と公開への申請をお願いしております。この登録と公開申請の手続きは、公開に必要な複製権と公衆送信権の許諾をお願いするもので、著作権の譲渡をお願いするものではありません。

今後、本誌に投稿される方のご理解とご協力をお願いします。

執筆者紹介

早島　大祐　本学准教授

菅沼　愛語　本学非常勤講師

小南　沙月　本学大学院博士後期課程

谷口　淳一　本学教授

編集委員

母利　美和（委員長）

桑山　由文

谷口　淳一

早島　大祐

本田　毅彦

史窓　第74号

二〇一七年二月六日　印刷
二〇一七年二月十日　発行

編集　『史窓』編集委員会

発行　京都女子大学史学会
京都市東山区今熊野北日吉町三五
京都女子大学文学部史学研究室内
☎（〇七五）五三一―九一〇〇
代表者　桑山　由文

印刷　株式会社図書印刷　同朋舎
京都市下京区中堂寺鍵田町二
☎（〇七五）三六一―九一二一